

お米が無くなった!?「令和の米騒動」 25歳の専門農家が思うこと

令和6年夏、猛暑の影響やインバウンド需要の増加、自然災害発生に備えた買い占めなどが重なったことで、全国的に「米不足」が発生し「令和の米騒動」だと騒ぎになりました。

そのような状況下で、米を生産する農家はどのようなことを思っていたのでしょうか。

彦根市甘呂町で米づくりに励む若手農家・増田慈さん(25)にお話を聞いてみました。



Q スーパーなど小売店でお米が品薄となり、「お店に行っても買えなかった」という声が多くありました。ご自身の体感ではどうでしたか？

A 「農家が儲けるチャンスだ！」と話す人もいましたが、私の周辺でも家庭にお米が無くなったため連絡をくださる方が多くいました。私が自宅で食べる用の米を分けるなど、何とかやりくりし、正直言って普通にピンチでした。

いつも当たり前で食べている米が食べられないって、結構深刻じゃないですか。お金がある人は高い値段でも入手しようと思えばできますが、そうでない人も多くいるのが現実です。米は毎日を元気に過ごすための必需品なので、皆が平等に買える仕組みが必要だと改めて感じました。

Q 農業に取り組む中で意識していることはありますか？

A 農産物をできるだけ安価で手に入れてもらえるようにすることです。富裕層から貧困層まで、米や野菜はすべての人たちにとってなくてはならないものですよね。もちろん… 続きはWEB版Umel(ウメル)をご覧ください

＼お米の通販はこちら！／



お手持ちのスマホで読み取ってください

JA 東びわこ発。
分断されてしまった食と農の
隙間を埋める新メディア

ウメル Umel



お手持ちのスマホで読み取ってください

閲覧は
公式LINEから！

ウメル Umel

vol.1
2024.11

食と農の隙間に届ける情報紙

特集

1. どのお米がおいしい？あなたにピッタリな近江米の品種診断
2. お米が無くなった!?「令和の米騒動」25歳の専門農家が思うこと



近年、流通の高度化により、いつでも・どこでも手軽に農産物を手に入れることができるようになりました。そうした中、私たち地域住民の意識の中で「食」と「農」が分断され、意識の高い消費者として「食」を重視することはありながら、農産物を栽培する過程にある農家の苦労やこだわりを知る機会、理解しようとする習慣は、時代とともになくなってしまいました。

お米や野菜があたかも工業製品のように生産され、店頭に並ぶと考えている人も少なくありません。自分たちが食べている農産物が、田んぼや畑でどのような育ち方をしているか、考えたことはありますか？

編集・発行／企画総務部

東びわこ農業協同組合

〒522-0223 滋賀県彦根市川瀬馬場町922番地1

TEL:0749-28-7860 FAX:0749-28-7888

ホームページ <https://www.ja-higashibiwako.jp/>

メールアドレス info@east.jas.or.jp



©2017 JA-KYOSAI



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



みんなのよい食プロジェクト



※協同組合連合会(JCA)が定めた世界共通の協同組合のマークです。

どのお米がおいしい？

あなたにピッタリな近江米の品種診断

スーパーなどの売り場で色々な種類のお米を目にしつつ、
無難にいつも同じ銘柄を選んでいませんか？
お米にはたくさんの品種があり、
品種によってそれぞれ違った味わいが楽しめます。



WEB版にて

食と農の間を埋める
WEBマガジン「Umel(ウメル)」

期間限定

読者プレゼント企画

特賞 地元のお米
1年分(1俵) 1名さま



Wチャンス!!
JA東びわこオリジナル
クオカード 80名さま
(500円分) ※図柄は異なる場合があります

地元で栽培されている
お米の人気ランキング
TOP10を公開中!!

あなたにピッタリな品種の
ランキングを
チェックしてみましょう!

読者プレゼントのご応募
ランキングの閲覧は
公式LINEから!



お手持ちのスマホで
読み取ってください

\ Start /

